

第2分科会 研究課題「子どもの発達に関する課題」

個に応じた支援を行うための
校種間等連携の在り方



高山市教頭会
 高山市立 中山中学校
 高山市立 北小学校
 高山市立 西小学校
 高山市立 三枝小学校

1 主題設定の理由

個に応じた支援を行うための
校種間等連携の在り方



要配慮児童生徒の増加
 不登校（傾向）児童生徒の増加

1 主題設定の理由



市内に12中学校区
 小学校19校

- ・発達に困難を抱え、特別な支援の必要な児童生徒の増加
- ・小1プロブレムや中1ギャップ等、学校不適応による不登校傾向の児童生徒の増加

2 研究の方法

□ 中学校区を母体に課題の設定、研究、実践

・ 定例の小中教頭会で実践交流

＜中山中学校区グループ＞
 「個に応じた支援を行うための
 校種間等連携の在り方」
 →各校の実践を持ち寄り、交流、検討

3 研究内容

- (1)幼稚園及び保育園と小学校との連携推進
- (2)小学校と小学校との連携推進
- (3)小学校と中学校との連携推進
- (4)関係諸機関との連携推進

4 教頭としての働きかけ

(1)幼稚園及び保育園と小学校との連携推進

- 年間計画作成
- ①打ち合わせの場の設定
 - ⇒教務及び担当職員と保育園職員との年間の交流の打ち合わせの場の設定
 - ⇒交流の意義を確認し、児童や園児の実態を考慮して、相互理解につながるように内容を工夫する等、指導助言

4 教頭としての働きかけ

(1)幼稚園及び保育園と小学校との連携推進

- ねらい
 - ・小1プロブレムの解消（園児）
 - ・異学年との関係づくり（児童）



4 教頭としての働きかけ

(1)幼稚園及び保育園と小学校との連携推進

交流の内容

時期	交流内容	交流学年	内容
5月	こいのぼり集会	1年生	ビニール製のこいのぼり共同制作
6月	プランター作り	4年生	共同でプランターの花植え
12月	球根植え	5年生	入学時に咲くチューリップ球根植え
2月	プレゼント交流	1年生	松ぼっくりのアクセサリプレゼント
2月	一日入学	1年生	学校案内

4 教頭としての働きかけ

(1) 幼稚園及び保育園と小学校との連携推進

□ 交流の成果

<園児>

- ・ 小学校（施設・小学生・教職員等）をより身近に感じる
- ・ 入学の不安感を和らげ、期待感に繋げる

<児童>

- ・ 年下に対する関わり方を学ぶ
- ・ 優しさやいたわりの心を育てる



4 教頭としての働きかけ

(1) 幼稚園及び保育園と小学校との連携推進

□ 実践2 年少児から3年間をかけた情報共有

(過去の体制の実態)

- ・ 年長児において、就学相談体制を執り、対応。

(課題)

- ・ 学校不適應の心配がある
園児への対応の遅れ
- ・ 集団行動に隠れてしまっている
不適應園児への対応の遅れ



- ・ 入学後の支援体制づくり
- ・ 必要な支援員数の要望 等



入学後の支援に
間に合わない！

4 教頭としての働きかけ

(1) 幼稚園及び保育園と小学校との連携推進

□ 今後に向けての指導助言

- ⇒ 交流後の振り返りをさせることで児童に成長とやりがいを感じさせ、見通しをもって交流を続けること
- ⇒ 保小の職員が意見交換や情報交流するためお互いに園児や児童の様子を見て情報共有等をする場を定期的に設定して、より連携を深めること
- ⇒ 高山市で取り組んでいる「スタートカリキュラム」「キャリアパスポート」を活用すること

4 教頭としての働きかけ

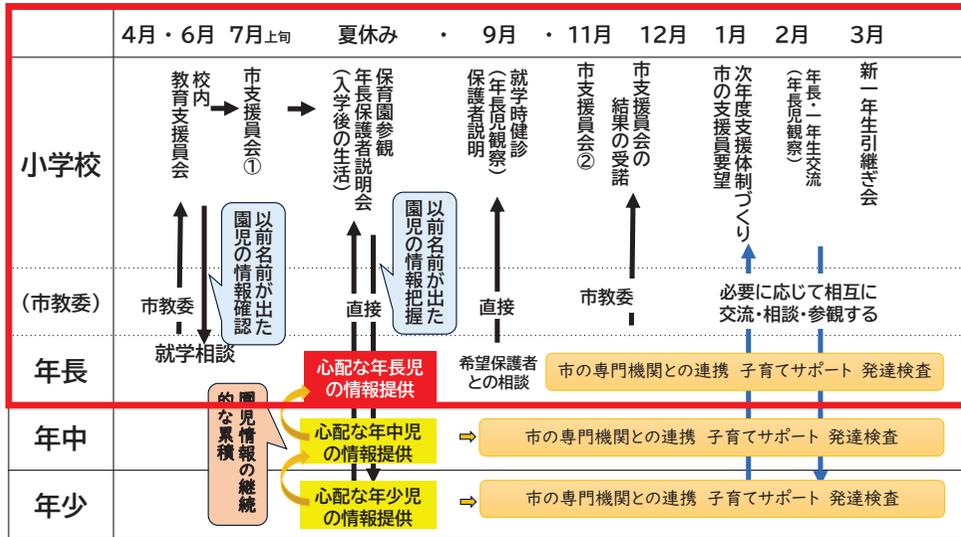
(1) 幼稚園及び保育園と小学校との連携推進

- ・ 課題を受け、教頭（特別支援教育副コーディネーター）の呼びかけにより、校内教育支援委員会で検討する

(手立て)

年少児から3年間、
継続して気になる園児について保・小で情報を
共有する

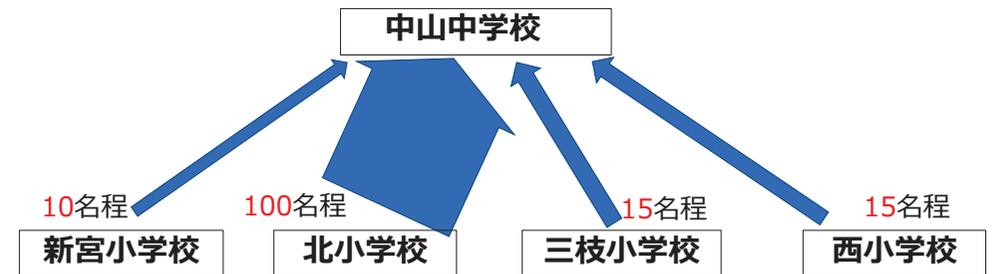
(具体)



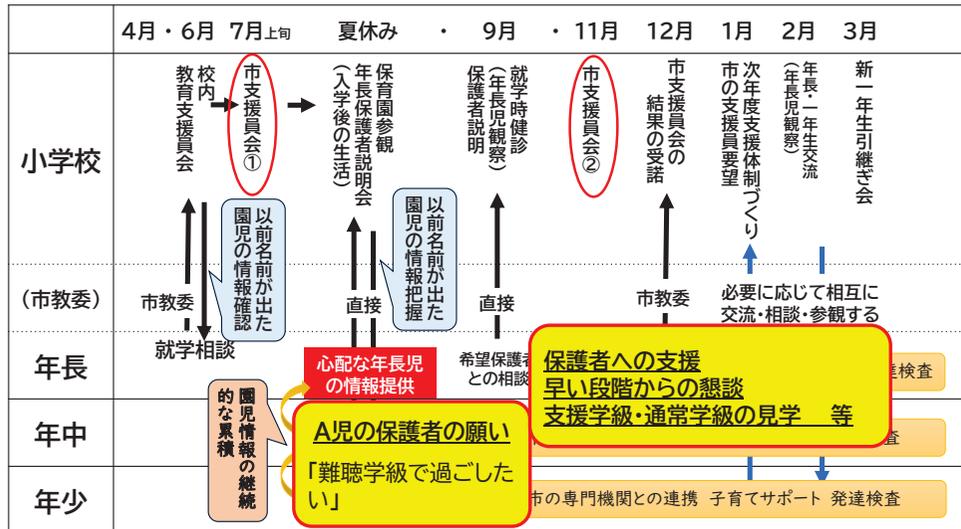
4 教頭としての働きかけ

(2) 小学校と小学校との連携推進

□ねらい・・・中学校での不安解消
中1プロブレムの解消



(A児の事例)



4 教頭としての働きかけ

(2) 小学校と小学校との連携推進

□実践

・小学校6年同士の交流（6月）

⇒学級数の多い北小に、西小と三枝小児童が訪問し、
レクレーショ運を通して交流を図りました。



4 教頭としての働きかけ

(2) 小学校と小学校との連携推進

□ 児童の感想

- ・ 違う学校に同じ趣味の子がいることを見つけて嬉しかった。
- ・ 隣の学校の子と仲良くなることができてよかった。
- ・ この会をもう一度やってほしい！ など

4 教頭としての働きかけ

(3) 小学校と中学校との連携推進

実践① 特別支援学級在籍児童と保護者を対象とした

授業参観及び懇談会の実施

中山中学校入学者数の変遷

年度	R4	R5	R6	R7
1年生人数	136	150	149	138
特別支援人数	5	9	5	8
合計	141	159	154	146

令和7年度に向けて

- ◇ 校区の小学校のうち 2校より参加
- ◇ 児童6名と保護者が参加

- ・ 交流授業について
- ・ 入学後の個別支援について
- ・ 卒業後の進路について



実態の把握と情報の提供

4 教頭としての働きかけ

(3) 小学校と中学校との連携推進

□ ねらい

小学校から中学校に進学する際に生じる環境や、学習内容、生活リズム等の大きな変化によるストレスや不安を軽減する。

□ 実践

- ① 特別支援学級在籍児童と保護者を対象とした授業参観及び懇談会の実施
- ② 入学前個別懇談の実施
- ③ 個別の支援計画・指導計画をもつ子を対象とした小中学校職員の見直し交流会実施

4 教頭としての働きかけ

実践② 入学前個別懇談の実施

入学式前の個別相談 希望票 (該当項目に○をつけてください)

希望する	希望しない
↓	↓
電話相談希望	懇談希望 (中山中学校で行います)
↓	↓
◆ 相談内容を下にお書きください。	

関係者

教頭 教務主任 生徒指導 養護教諭
 特別支援教育コーディネーター 教育
 相談担当 学年主任 S相

実態の把握と情報の提供



教室以外の居場所の紹介



血糖値の管理に用いる器具の紹介

安全・安心の保障に向けた取組

4 教頭としての働きかけ

実践③ 個別の支援計画・指導計画をもつ子を対象とした
小中学校職員の意見交流会実施

日程	内容	備考
6時間目	授業参観	*小学校担当者の来校時刻を決めない。 *基本的に自由に参観する。
掃除 帰りの会等	懇談	*中学校からは、学年主任と教頭が懇談に出席。



実態の把握と情報の提供

- ・意見交流会の時間や参加者・懇談内容を精選できた。
- ・教頭が調整と集約をすることで円滑な連携となった。

4 教頭としての働きかけ

実践① 「保育所等訪問事業」を活用した児童支援

- ・専門家（理学療法士）が子どもを観察
⇒ソーシャルスキルトレーニングを実施する。
⇒授業中の活動の仕組み方の指導を受ける。

実践② 「こども家庭支援センター」等と連携した児童生徒

・保護者支援

- ・教頭を窓口にした連絡調整
⇒小中学校関係者、市の担当でケース会議を開催する。
⇒福祉・医療面の支援の状況等を校内で共有し、支援に活かす。

4 教頭としての働きかけ

(4) 関係諸機関との連携推進

□ねらい

福祉や医療等と連携し、支援を充実させることで児童生徒の学びや成長を支えると共に、保護者・教職員の不安や心配を軽減する。

□実践

- ① 「専門療育スタッフ支援事業」を活用した児童支援
- ② 「こども家庭センター」と連携した児童生徒

・保護者支援

4 教頭としての働きかけ（案：重山）



5 成果

- 各連携の場において、適切にコーディネートすることで、児童生徒の情報が、必要な支援者に滞りなく伝わり、円滑に対応することができた。
- 情報を集約し、各校務分掌を担当する教職員に適切に指示を出すことができた。
- 校外の関係諸機関と連携することで、異なる視点からの支援を得ることができた。

ご清聴ありがとうございました

5 今後の課題

- ▲引継ぎ内容を確実に次年度に伝えていく。
 - 互いに授業を参観したり、担当者どうしで情報を交換したりするなどの連携会を、教頭が意図的、定期的に計画及び実施する
 - 教頭どうしの連絡を密にする。
 - 関係する園、学校、外部機関との担当者への働きかけ